



1. 桜が咲く場内。崩落した石垣を超える50mスパンのアーチ構造
2. 50mスパンのアーチ構造見上げ
3. 特別見学通路と熊本城の夕景



日建連表彰2022



第63回BCS賞

熊本城特別見学通路

選定理由 【選考委員】
山内弘隆・堀部安嗣音 順二

訪れた時には平日であったにもかかわらず、老若男女多くの市民や観光客が楽しげに見学通路を通り、そして佇みながら熊本城を眺めたり写真を撮ったりしている微笑ましい姿を目にすることができた。またコロナ禍のなかにあつて建築や環境との身体的な語らいの場があることの貴重さを感じることができた。

この見学通路がもたらした大きな価値は、この通路ができていなかったらどうなっていたらだろうと想像してみると自然と浮かび上がってくる。もしこの建築がなければ二〇一六年の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城に復旧工事中の二〇年間という長い時間の間、城内に市民が入れない状態が続いてしまう。重要な観光資源が失わ

れることは地域の経済が循環しないことにも繋がる。更に伝統や過去を知る機会が失われ、災害の怖さや復旧することの大切さを知る機会も失われてしまうだろう。失われた二〇年にならないためにもこの建築は大きな役割と期待を担っているのである。

しかし敷地は国の特別史跡であり新築を建設できないこと、地中および地表には多くの遺構が確認されており地面掘削や既存樹木の扱根はできないこと、通路の高さ制限があること、バリアフリーに配慮した通路の勾配が自ずと規定されること、被災した城内の復旧工事を止めることなく、更に復旧工事を安全に見ることができるようになることなど様々な制約が重なっており、それに対応するために建築的な配慮や工夫が的確になされていなければこの通路は実現しなかった。

3Dモデルや測量データを使い

最小限の樹木伐採で済みながらも魅力的な視点を生み出すルートを導き、基礎が置ける範囲が限定される箇所は五〇メートルのアーチ構造や方杖付きトラス構造などの大スパンを採用し、または一本の間柱で支持が可能なリングゲーター構造を用いることで敷地の制約に対して的確な構造の解決を図っている。更に不特定多数の来城者が利用する通路が高所にあることの心理的不安を軽減するために、アーチ部には歩行振動抑制装置(TM

D)を採用したり、トラス状の落下防止手すりによる剛性を増やすことで歩行振動を極力抑えていることも見逃せない。多くの人が立ち止まり、天守閣を眺めたり写真を撮ったりする場所には通路に膨らみをもたせるなどの細やかな配慮は人々に「自然さ」と「安らぎ」を与えている。環境や時代が「負」の状況に追い込まれた時にこそ、人々に希望を与える建築。そのことに高い評価を与えたい。

熊本城特別見学通路 概要

- 所在地 熊本県熊本市中央区本丸地内
- 建築主 熊本市
- 設計者 (株)日本設計
- 施工者 (株)安藤・間、武末建設(株)、(株)勝本工務店
- 竣工日 2020年3月31日

- 敷地面積 423,477㎡
- 建築面積 927㎡
- 延床面積 219㎡

- 階数 地上1階、塔屋1階
- 構造 鉄骨造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造



詳細や他の写真などは左記の二次元コードからWebページにアクセスしてご覧ください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路 / 熊本市計画桜町地区第一種市街地再開発事業 / GREEN SPRINGS / 国立競技場 / THE HIRAMATSU京都 / 三栄建設 鉄構事業本部新事務所 / ダイアゲート池袋 / 谷口吉郎・吉生記念金沢建築館 / 東京大学総合図書館 / 東京都公文書館 / 長野県立美術館 / 延岡駅周辺整備プロジェクト / Hareza 池袋 / 横浜市庁舎 / 早稲田大学37号館 / 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。